

ダイズの吸実性カメムシ類

1 本県の主要加害種及び生態

本県における加害種はホソヘリカメムシ、ブチヒゲカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ、クサギカメムシ等である。これらはいずれも成虫で越冬し、周辺の植物に寄生しながらダイズの開花期以降にはほ場内に侵入、莢の上から口針を挿入し子実を吸汁、加害する。次世代の幼虫も同様に加害する。一年の発生回数はカメムシの種類によるが年1～2回である。

2 加害種の特徴

(1) ホソヘリカメムシ (写真1, 2)

成虫の体長は14～17mm、暗褐色で細長い。動きがすばやく人の気配に敏感に反応し飛び去ってしまう。



写真1 ホソヘリカメムシ成虫



写真2 ホソヘリカメムシ幼虫

(2) ブチヒゲカメムシ (写真3)

成虫の体長は11～13mm、体色は赤褐色から小豆色で、触角が黒と白の斑（ぶち）であることが和名の由来である。



写真3 ブチヒゲカメムシ成虫

(3) イチモンジカメムシ (写真4, 5)

成虫の体長は9.5～11mm、淡黄緑色で前胸背に紅色(雌)または白色(雄)の一文字状の帯があることから名付けられた。



写真4 イチモンジカメムシ成虫



写真5 イチモンジカメムシ幼虫

(4) アオクサカメムシ (写真6, 7)

成虫の体長は12~16mm、緑色で光沢は無い。触角は緑と黒の斑である。



写真6 アオクサカメムシ成虫



写真7 アオクサカメムシ幼虫

(5) クサギカメムシ (写真8)

成虫の体長は16mm前後、暗褐色に黄褐色の不規則な点紋がある。触角は5節で細く黒色を呈しているが、第4節の両端並びに第5節の基部は黄褐色である。



写真8 クサギカメムシ成虫

3 被害のようす

莢の伸張期に被害にあった場合、莢は黄変して落下する。子実の肥大初期に被害を受けた場合は子実は肥大せず「しいな」となり、莢は扁平で緑色を保ち板莢となる。肥大中期以降の場合は、吸害程度に応じて不正型な被害種子（写真9）となって登熟する。



写真9 被害を受けた子実

4 防除方法

莢伸張期から子実肥大期に実施する。使用する薬剤は福島県病虫害防除所ホームページを参照ください。
(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>)